HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	福島後のエネルギー
Author(s)	藤井, 義明
Citation	札幌北高校北高便り, (91)
Issue Date	2012
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/57972
Type	article
File Information	91.pdf

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

福島後のエネルギー

PTA 会長　藤井義明

この 4 月から PTA 会長を仰せつかっている藤井です。エネルギーに関する私見を若干述べさせていただきます。皆さんが自分で考える参考にしていただければ幸いと思います。

原稿を書いている現在は 6 月初めで、全ての原発が停止しています。この北高だよりが発行される 7 月末には計画停電も準備されていることと思います。ピーク時のテレビ放送や商店の営業を止める、電気自動車のピーク時充電を禁止するなど、節約の方法はまだまだあると思いますが、それらと同時に、何らかの方法で発電量を増やした方が、暮らしよい社会になります。

政府のコスト検証委員会の報告では、発電方式別の発電コストは、原子力で 8.9 円/kWh+賠償金、石炭で 9.6-10.6 円/kWh、天然ガスで 10.7-11.9 円/kWh、石油で 20.8-37.6 円/kWh となっています。つまり、賠償金（全て国民が負担します）を考えると、石炭や天然ガス火力は原子力発電より高くありません。また、原子力以外の上記のコストは二酸化炭素対策費を含んでいるので、石炭や天然ガスで発電しても人為的二酸化炭素排出量が増える心配もありません。今からでも遅くないので、すぐに石炭や天然ガス発電所の増設に取り掛かり、急場を凌ぐべきです。石油火力は高すぎるので現実的ではありません。可能な限り使わないほうがよく、老朽化した場合も補修・改修せず、石炭や天然ガスに切り替えるのがいいでしょう。

日本の人口は 2005 年をピークに減少しており、2051 年には 3 割減になると予想されています。原発は発電量の 3 割を賄っていましたので、一人あたりのエネルギー消費量が変らなければ 2051 年に、電力の節約が進めばそれより早く、原発で発電していた分の電力は不要になり、電力不足の問題は自ずと消滅します。

原発を止めると化石エネルギーの枯渇が早まるのではないかという意見もあるかもしれませんが、私の計算では、化石エネルギーが今と同じように使えるごく大雑把な目安は、世界のエネルギー消費量が変わらないとして、あと 146 年です（これは、146 年よりは長くて、1460 年よりは短いだろうという程度の意味です）。ウランがあると 146 年が 153 年になります．．．というか、何も変らないのです。

紙数が尽きましたので原発再稼動の是非やいわゆる再生可能エネルギーの使用、化石エネルギー枯渇後の世界についてはまたの機会に。